

特集  
高校生  
まちづくり  
～STEPの活動～

弘前市高校生放課後まちづくりクラブ「STEP」とは

設置の背景 ～18歳で「大人」へ～

選挙権年齢が平成27年6月から、成年年齢が令和4年4月から18歳に引き下げられ、若者がさまざまな物事について自らの意思で決定する機会が増えてきています。それに伴い、自分が暮らす「まち」や地域の「ひと」を知る必要性和重要性が高まってきました。

その一方で、学校と地域をつなぐ活動や組織は少なく、高校生が親や教師以外の大人と関わる機

会が少ないのが現状です。

市では、変革の時期を迎える高校生が地域や地域の人を知り、地域活動に関わることで地域志向の見方や考え方を養えるように、放課後や休日に部活動のようにまちづくり活動に取り組む「弘前市高校生放課後まちづくりクラブ（STEP）」を令和2年5月に作りました。本年5月から第2期が始まったSTEPに参加する高校生が地域とどのように関わっているのか、どのような思いを持って「大人」になろうとしているのかを紹介します。

◎活動の目的

- ①自分たちが暮らす地域のことを知り、学び、活動を通じて地域の人との関わりを深める。
- ②高校生ならではの柔軟で自由な発想のもと、自分たちが楽しく、暮らしやすい地域をつくるための活動をする。
- ③学校の枠を超えてメンバーが共に協力し、交流を図る。



▲自分で考えたまちづくりのアイデアを書き出す高校生たち

Student(生徒) Town(まち) Education(教育) Partnership(相互関係)

第1期生の活動

第1期生は自分たちの思いと向き合い、したいことや好きなこと、身の回りから無くしたいことを言語化し、出てきたアイデアを「マイプロジェクト」として形にしました。

放課後や休日に集まって机を囲み、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限された時期にはオンラインミーティングも行いながら企画を練りました。その成果として、「学生がつながる場」、

「子どもと親が笑顔でいられる環境」、「食とスポーツ」など、さまざまなプロジェクトの芽が生まれました。

プロジェクトの中には、実施に至らなかったものもありますが、自分と向き合って悩み苦しんだこと、地域の大人との関わりを作れたこと、学校を超えて生徒同士で交流したことで、第1期生たちは大きく成長できました。



▲1年間の活動成果報告会を終えたSTEPの第1期生

第1期・第2期生 弘前南高校 3年 石澤 晴太郎さん

「挑戦することの大切さを学びました。

とにかく考え、行動し、追及し続けたい」



小さい頃からねぶたに参加したり、津軽手踊りを習ったりして、弘前のことが好きでした。他校の学生たちと交流するいい機会だと感じ、STEPに参加しよう決めました。

私はマイプロジェクトとして、さくらまつりに来た観光客に園内を楽しく巡ってもらいたいと感じ、スマートフォンで見ることができる分かりやすいデジタルマップを作成する目標を立てました。高校1年生の時に、さくらまつりを訪れたスペイン人が公園内にある地図を見て困っている様子を見かけ、自ら案内を

した経験がきっかけです。

STEPの活動の中で情報の収集を重ね、QRコードで閲覧できるデジタルマップを今年のさくらまつり期間に合わせて完成させ、運用することができました。

目標は達成しましたが、課題点や改善点が明確になったので、このマップの磨き上げを継続して行っていきたいと考えています。第2期生としても継続して参加を決めたのですが、今年は対象を観光客から市民へ変え、新たなメンバーと共に刺激し合い、新しいまちづくりのアイデアをプロジェクトとして達成することを目指しています。第1期での活動は楽しみながら活動を続けられたので、1年間の活動経験を第2期の仲間へ伝えながら、今年1年間も素直に自分の考えの軸を信じて、仲間と一緒にチャレンジし続けたいです。